

千歳支部の現状と今後の課題について

ミツミ電機株式会社 半導体事業部 設計技術部
小川 裕 (平成元年・化工)



我が支部があるここ千歳市は、古くから「北海道の空の玄関口」として栄えてきました。空港があるだけでなく、太平洋に面した苫小牧港や日本海に面した石狩新港も近く、その利便性から製造工場の進出も多い地域です。最近では半導体製造で世界最先端プロセスを目指すラピダスが進出し、今後関連産業も含め多くのエンジニアがここ千歳に集まることが予想されます。



試作が稼働し始めたラピダス千歳工場

さて我々千歳支部ですが、現在会員総数は314名、年に1度の総会兼懇親会、ゴルフコンペ等の活動を行っております。他の支部同様に参加者の高齢化が進んでいます。会員全体を見ると平成20年卒以降の卒業生も多く、若い世代が同窓会へ不参加なのが要因です。

私の場合、在学中は寮で多くの先輩・後輩達と生活していたこともあり、初めて同窓会の総会に出席したときは、何の抵抗もなく多くの諸氏方とコミュニケーションし、大学生活や室蘭の思い出話を楽しみました。同じ会社の場合だとどうしても職場の上下関係や業務の話が出てしまいますが、同窓会なら同じ学び舎、同じ街で過ごした思い出話を思いっきりできました。ただ私の場合は例外的みたいで、若い世代からすると先輩たちとの関りが煩わしく感じるようで、確かに上の世代は意識がなくとも、そこには上下関係が存在し、若い世代はどうしても恐縮してしまうのかと思います。



令和7年度支部総会兼懇親会集合写真

今後千歳市は多くの工場進出とともに同窓生が増えることが予想され、新たに会員となってもらえるように取り組んでいきたいと考えています。支部の世代交代なくして未来はありません。若い世代が積極的に参加してもらえる環境づくりが重要となってきます。例えば若い世代だけの分科会を形成してもらい、上の世代抜きで同窓会に馴染んでもらう、独自の企画を実施してもらおう等を検討しています。また女性の卒業生も増えていきますので、女性の参加を促すのも重要かと考えます。(いつの時代も女性が増えれば、自然と男性の参加も増えるものです。)

上の世代も意識改革が必要です。例えば会話は基本的に聞き役になってもらう、古い話を押し付けない(「俺たちの時代はなぁ」などと説教じみた話はやめましょう(笑))等、若者が煩わしく感じることは自ら律して行動したいところです。

兎にも角にも最初の一步が肝心。一度は懇親会に参加してもらい、そこで良い印象を持ってもらえるようにしていきたいです。本部におかれましても、卒業生に同窓会の積極参加を推奨していただけよう切にお願い致します。